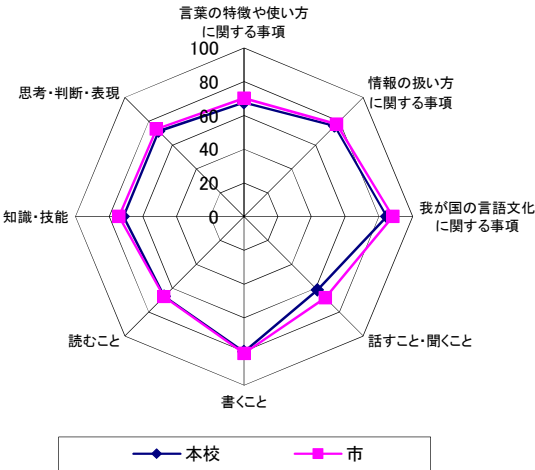


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.6	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	76.0	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	84.7	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	61.6	68.2	67.4
	書くこと	80.1	81.1	71.7
	読むこと	66.9	67.2	61.3
観点別	知識・技能	71.5	74.2	67.9
	思考・判断・表現	71.7	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

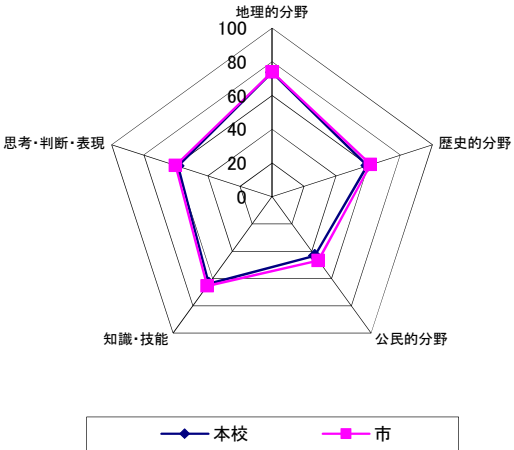
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の値より2.6ポイント低いが、参考値と比較すると2.9ポイント上回っている。 ○敬語の正しい使い方について、おおむね身に付けている。 ●漢字の読み書きについては、日常生活に使われない漢語を読んだり同訓異字を書き分けたりする力が身に付いていない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章を音読する機会を増やし、漢字を正しく読む力を日頃から身に付けさせる。 ・漢字のテストを定期的実施し、書く力を身に付けさせる。 ・語彙を増やし、状況や心情を的確に表す言葉が使えるよう読書を推奨する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の値より1.6ポイント低いが、参考値と比較すると4.9ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し論理の展開の仕方を捉え力については、市の平均正答率をやや上回っており、比較的身に付いているといえる。	・説明的文章においては自作のワークシートを活用し、内容を的確に把握したり段落同士の関係を捉えたりする学習を行う。 ・文章を正しくとらえるために表や図などを活用してまとめる工夫をさせる。
我が国の言語文化に関する事項	市と比較すると3.6ポイント下回っているものの平均正答率は8割を超えており、他の領域と比べて良好な状況が見られる。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したり、簡単な古文の意味を理解したりする力はおおむね身に付いている。	・教科書で扱っている古文以外の文章も紹介し、親しませるようにさせる。 ・古文に頻出する重要な古語を取り上げ、意味の理解につなげる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は領域の中で最も低い値を示しており、市との比較では6.6ポイント、参考値と比較しても5.8ポイント下回っている。 ○話の内容を正しく聞き取る力はおおむね身に付いている。 ●話をするときの表現上の工夫や、話の展開を予想する力に課題が見られる。	・「話すこと・聞くこと」の单元以外でも、話し合いや発表を積極的に取り入れ、相手を意識した話し方の工夫を考えさせる。 ・発表やスピーチの学習では、互いに感想を述べ合い、相手に正しく効果的に伝わる話し方の工夫について考えさせる。
書くこと	平均正答率は8割を超え、市の値を下回っているものの、他の領域に比べればその差は小さい。 ○課題に従って意見文を書く力はおおむね身に付いている。 ●情報を読み取り、相手の意図を汲み的確に表現する力に課題が見られる。	・意見文に関しては、説明的文章の学習の中でも効果的な構成について学習し、さまざまな課題に対応して書くことができるようにさせる。 ・情報を正確に読み取り、求められるテーマに正しく応じて書くことができる力を身に付けさせる。教科書で扱われている教材について、学習の最後に自分の意見をまとめることで力を養っていく。
読むこと	市の平均正答率を若干下回っているもののその差は小さくほぼ同程度といえるが、平均正答率は7割に届かず課題が見られる。 ○説明文における文章の論理的な展開や、文学的文章における登場人物の心情を理解する力は、比較的理解できていると言える。 ●文学的文章における表現の工夫を理解する力に課題が見られる。	・説明的文章の読解においては、自作のワークシートを活用し文章の構成や論理的思考の展開について丁寧に考えながら考えを深めさせる。 ・文学的文章の読解においては、情景や心情を丁寧に追いつながり、内容を把握し読み味わうようにさせる。 ・文章の理解を深めることで、読むことの面白さに気づかせ、様々な事象への新たなものの見方・考え方を養う。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	73.7	74.0	67.9
	歴史的分野	59.4	61.5	56.1
	公民的分野	43.2	46.9	40.7
観点別	知識・技能	63.8	65.5	60.6
	思考・判断・表現	58.7	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

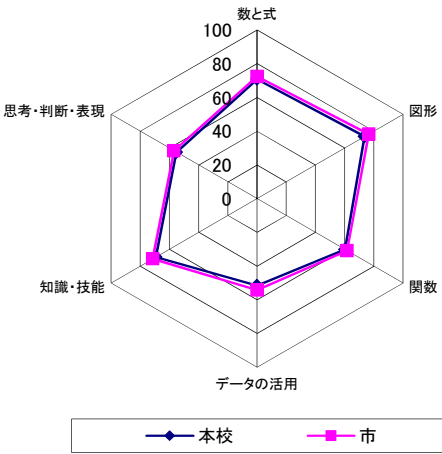
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	市の平均と比較し、正答率はわずかに0.3ポイント下回った。昨年度と比較すると、5.8ポイント上回った。正答率が他の分野より高い結果となった。 ○選択問題は9問中7問が市の平均を上回っており、基礎的な知識の定着が伺える。 ●複数の県の産業の特色についてグラフを見て考察する設問では、正答率が50%を下回った。学習したことを複合的に考える力に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・生徒の資料活用能力と思考・判断・表現力を養うことを意識した授業展開が必要である。地図や表などを読み取る技能はもちろん、複数の資料を関連させて正確に要点を読み取る力を身に付けさせたい。 ・「日本の諸地域」の分野では、地域通しの比較を通して、複数の地域の学習内容を結び付けて考える力を身に付けさせたい。
歴史的分野	市の平均と比較し、正答率は2.1ポイント下回った。 ○江戸時代の社会の様子について正しい絵画を選ぶ設問では、正答率が市の平均を11.7ポイント上回った。 ●正答率が市の平均を上回った設問は1問に留まり、歴史分野の基礎的な知識の定着に課題が見られる。 ●江戸時代の文化の背景を問う設問は正答率が23.3%に留まった。	・文化の学習を行う際には、ただ作品名や作者名を覚えることに終始させず、文化の隆盛の背景や特色を合わせて理解させたい。 ・近世の内容は古代・中世に比べ事象同士の因果関係が複雑になってくる。人名や出来事の名称をただ暗記することに力を入れるのではなく、内容を理解することに重点を置いた授業展開が必要である。歴史の流れを掴みながら、「なぜそうなったのか」を説明できるように理解を深めさせたい。
公民的分野	市の平均と比較し、正答率は2.2ポイント下回った。他の分野に比べ正答率が約14～30ポイント下回っている。 ○日本国憲法の基本原理や社会権の種類を問う問題の正答率が他より高かった。語句を整理して覚えることができています。 ●記述問題の正答率が最も低い傾向にある。事象の背景を理解できていないと考えられる。	・基礎的な用語を問う問題はよくできている。公民的資質を養うためにも、現代の諸課題や世の中のニュースを授業で取り扱い、生徒の関心をさらに高める必要がある。 ・語句を覚えることに執着してしまい、なぜそのような出来事が起きているのかについて興味をもって探ろうとする生徒は少ない。事象の因果関係を理解させるような授業づくりを行いたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.8	72.5	71.3
	図形	73.6	76.5	68.1
	関数	60.2	61.7	50.3
	データの活用	51.6	54.2	43.5
観点別	知識・技能	69.3	71.5	66.7
	思考・判断・表現	55.2	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

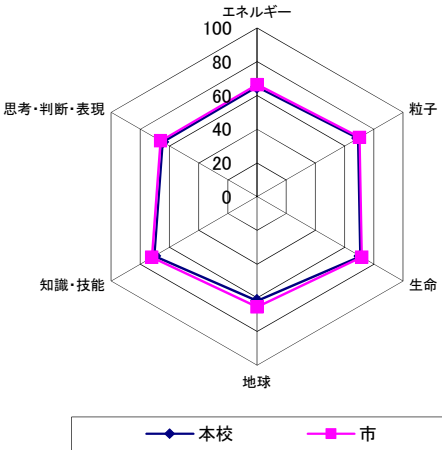
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均よりやや低いものの、7割を超えている。 ○2次方程式を解く問題では、市の平均を2.6ポイント上回っている。 ●平方根の大小を問う問題や、正負の数を利用した記述問題で市の正答率より低くなっている。問題文が長くなったり、記述する問題に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・与えられた文章問題に対して、2次方程式を立式するという問題の正答率が低い。計算問題に関しては、市の平均と比べてもそれほど変わらないため、読解力が低く、問題の意味がよく理解できていないという原因が考えられる。問題を読む際、聞かれていることに下線をひくなど、授業中に促す。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○図形を回転移動させて角度を求める問題では、市の平均より高い。 ●三角形の合同条件を穴埋めで答える問題は、市の平均より低い。三角形の合同条件については完璧に覚えるようにしており、テストも行っているが、証明問題の穴埋め形式になると、証明を初めから追っていかねばならず、それが困難なため、合同条件が答えられないと考えられる。	・三角形の合同証明は、苦手な生徒が多い分野ではあるが、論理的思考を養う上でも重要な分野であるため、順を追って丁寧に説明していくとともに、模範解答を見ないで、自力で証明が書けるようになるまで書いてみるよう促す。
関数	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○関数のグラフ上の点を結んで正方形をつくり、辺の長さを求める問題では、市の平均より高い。 ○冷蔵庫の総費用を、グラフから読み取って説明する問題では、市の平均より高い。公開授業の際、携帯電話の料金の比較を、グラフを使って読み取る授業を行った成果が表れていると考えられる。 ●1次関数のグラフとx軸、y軸で作る三角形の面積を求める問題で、市の平均より低い。グラフと座標の関係が理解できておらず、座標が求められない生徒が多いと考えられる。	・デジタル教材なども活用しながら、式、表、グラフの関係について、理解を深められるようにする。 ・補助教材やプリントなどを使い、演習問題を多く解くことで、様々な問題に対応できるようにする。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	65.1	66.5	61.2
	粒子	69.3	70.2	62.3
	生命	70.8	71.8	65.7
	地球	61.7	65.4	61.0
観点別	知識・技能	70.3	72.0	67.3
	思考・判断・表現	64.7	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

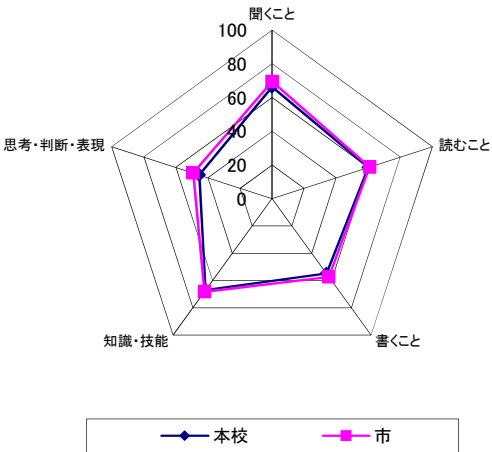
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○オームの法則を使った計算、位置エネルギーと運動エネルギーの関係を表したグラフの読み取りの正答率は市の平均より高い。基本的な公式を使った計算問題や簡単なグラフの読み取りはできている。 ●音の波形から音の高低を推測する問題、電力量の計算、慣性による運動を推測する問題の正答率は市の平均より低い。資料から減少を推測する問題に課題が見られる。	・実験の授業を行う際に、実験から結果考察を求めさせるだけでなく、グラフなどの結果から実験で行った現象を振り返らせ、現象がどのように表されているのか関連付けさせる指導に重点を置く。 ・公式を複数使って解くような問題演習を重点的に行う。
粒子	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○気体に適した収集方法を答える問題、中和滴定からイオンの数を推測する問題の正答率は市の平均より高い。実験で体感し理解した問題はできている。 ●物質の成り立ちに関する問題はすべて市の平均より低い。化学変化に対する苦手意識が強く、それに関連した問題の正答率も低い。	・化学式の知識の定着を図るために繰り返し授業で取り扱う。また、化学反応式の仕組みを理解させるために繰り返し問題演習を行う。 ・化学変化の知識、実験器具の知識、実験から考察を繋げることに課題がある。実験を行った際に、変化だけでなく、使用した器具の名称や目的、考察の検討に重点を置く必要がある。
生命	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○花が咲く意味、消化のしくみ、子の遺伝の仕組みの問題の正答率は市の平均より高い。基本的な知識の定着は図れている。 ●シダコケの分類、体のつくりの特徴とその意味、孫の遺伝の仕組みについての問題の正答率は、市の平均よりも低い。知識問題でも、細部を問う問題や読み取った答えからさらに答えを求める問題に苦手意識がある。	・単語を覚えることはもちろんだが、その意味やしくみを理解できるように、利点や特徴も併せて習得できるように指導する。 ・遺伝の仕組みを知識として理解させるのではなく、様々な問題を通して、どのように考えて組み合わせていくのかの方法を定着させる。
地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○大気の動きに関する問題の正答率は、市の平均より高い。また、前線の雲の動きに関しては、市の平均よりやや高い。 ●火山についての問題は、市の平均より低い。鉱物の色と粘り気の関係などを正確に理解できていない。	・火山の分野では、鉱物の名称だけでなく、その鉱物から作られる岩石の名称や、鉱物の特徴などを関連付けて、複数の鉱物を理解しなければいけない。そのため、それぞれの鉱物に対して整理しながら学習を進めるようにする。

宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	66.2	69.4	63.8
	読むこと	59.9	60.8	55.6
	書くこと	54.9	57.5	47.8
観点別	知識・技能	67.0	68.3	64.1
	思考・判断・表現	45.3	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○大問番号1と3の問題でもっとも正答率が高い傾向にある。それには英文を聞き、絵を見て適切な答えを選ぶという内容であり、英文を読むというより視覚での理解が優位にあることが分かる。 ●正答率をもっとも低かった問題は、大問5で、一定の長さの対話を聞いた後に、資料を見て対話の最後の文に続く英文を答える問題だった。内容を聞き取りながら、資料を見て正しく答えられていないことが分かる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・リスニング力を高める必要もあるため、一定の長さの英文を聞く時間をさらに取り入れたり、ALTの授業でも教師同士の発話量を増やし、英語を聞く時間をさらに増やす。 ・聞いている間に、大切な情報を落とさずにメモを早く取る指導も継続して行う。 ・教科書や補助教材以外にも、リスニングの資料を取り入れ、内容を聞きとる練習を繰り返して行う。
読むこと	○大問番号7の問題でもっとも正答率が高く、ポスターをもとに必要な情報を把握して適切なものを選ぶという内容であり、聞くことと同様で、視覚での理解が読解という点でも共通して優位にあることが分かる。 ●大問番号8の問題でもっとも正答率が低く、メールを読み、その内容から適切な語句を選ぶ問題であった。さまざまな種類の英文の内容を把握することが困難であったと考えられる。	・ある一定の長さの英文を限られた時間で読み、大意をつかみ概要をまとめる学習をさらに多く取り入れる。 ・教科書や補助教材以外にも、長文読解のための資料を取り入れ、内容を把握する練習を継続して行う。 ・限られた時間で情報を把握するためのテクニックを紹介し、時間内で長文を読ませる練習をさらに確保する。
書くこと	○大問番号9の問題でもっとも正答率が高い傾向にある。基本的な文の語順を理解して、正しく並べかえることができる。SV00の文型の理解度が高いことが分かる。 ●大問番号10の問題でもっとも正答率が低い傾向にある。対話の流れに合った英文を正確に書く問題で、答えを見て何をたずねているのかを想像することが困難であると考えられる。	・既習の文法事項を応用して、場面に応じた表現を使い分けられるよう、授業で英作文を作る時間をさらに確保する。 ・生徒の学習意欲を高め、基礎的な語彙力や表現方法をつけるために、単語テストを継続して行う。 ・英作文を作る上での基礎的な表現方法を身に付けて、問いかけに対して適切に即興で答えを考え正しく書く活動を積み重ねる。